



シリーズ人・ひと



今回お話を伺うのは、津市在住で「高茶屋日本語教室がんばる会」を立ち上げた田中レオニセさんです。日系ブラジル人3世の夫と息子らとともに26年前に来日しました。津市内の保育園で通訳の仕事をして8年間した後、現在は市内の中学校で外国につながる生徒を支援する仕事をしています。ブラジルから日本に来て、さまざまな違いに悩んだ経験を生かし、日本人と外国人との懸け橋となってきた思いを聞きました。



高茶屋日本語教室「がんばる会」
代表 田中レオニセさん

「がんばる会」のことを教えてください

高茶屋市民センターで、土曜日の18時30分から日本語指導などを行っています。約20年前から高茶屋地域に暮らすブラジル人が多くなり、生活上いろいろな困難が出てきました。2005年8月に「少しでも日本語が分かれば、今よりも暮らしやすくなるんじゃないか」と仲間と話し合っ始めて始めました。最初は日本語の単語を教えるくらいでしたが、だんだんボランティアの人たちも入って会話を教えたり、悩みや困っていることを聞いたりしています。花見をしたり、公共交通機関に乗ったりするなど、日本の文化や習慣なども勉強しています。最近では、ベトナム、フィリピン、中国、インドネシア、ボリビア、韓国の人なども来てくれています。

長く続けてきたのはどんな思いから？

どんなに忙しくても、用事があっても、がんばる会に行くようにしています。私も苦労したときに周りの人に助けられたので、今の自分にできることをやって、少しでも困っている人の助けになりたい。一緒にがんばりたいと思うからです。



文化や習慣の違いを認め合うには？

それぞれの国や地域の文化には、どれも意味があるんですよね。日本人は、周りに迷惑を掛けるようなことをすごく気にしますよね。こうした日本人の文化は素晴らしいと感じます。でも、私はなかなか日本人と同じようにはできなくて、今も迷ったり悩んだりすることがあり、難しいなと感じています。まずは違う文化と出会い、その違いを知ることが大事だと思います。「どんな人かな」「その国のこと知りたいな」と興味を持つことから始めてみてはいかがでしょうか。

これからも伝えていきたいことは？

共に生きるということは、お互いに相手のことを理解し合い、尊重することだと思っています。私は多様な人たちが豊かに共生できる地域や社会をつくるために、今の私にできることを行動に移し、諦めずにがんばろうと思います。

教室参加者・スタッフの声

- 日本語は難しいです。分からないときや困ったとき、スタッフの人たちが助けてくれるから心強いです。(教室で学習しているブラジル人参加者)
- がんばる会を立ち上げる前から関わっています。旅行に行かなくてもいろいろな外国の人と知り合いになれます。友達がいっぱいできました。(支援スタッフ 中条さん)

